

4月のアルミレポートおよび5月の見通し (4)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】			
前年比 +5.2%	7万369t	5カ月連続プラス。	
出荷は +3.9%	7万2213t	2カ月連続プラス。	
内 出荷先			
鋳物 +4.5%	ダイカスト +4.3%	板 -1.2%	
押出 +20.4%	鉄鋼-1.2%		
合金地金メーカー -5.9%	輸出 0		

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比 +5.3% 18万4369t 5カ月連続プラス

板類 生産は5ヶ月連続でプラス。出荷は1ヶ月ぶりにプラス

(1) 缶材 37,055t (▲2.8%)

期末の在庫調整もあり、3ヶ月連続でマイナス。

(2) 自動車 15,368t (2.7%)

アルミパネルを含む乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調により、プラスに転ず(2月の軽自動車を除く国内乗用車生産台数: 586千台、前年同月比: +12.5%)。

(3) 輸出 19,276t (4.2%): 3ヶ月連続でプラス。

押出類 生産・出荷ともに5ヶ月連続でプラス

① 建設: 39,989t (6.8%)

輸入品(サッシ以外の構造物)は増加傾向にあるものの(3月の通関実績: 10,783t、前年同月比: +25.8%)、東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市開発の整備に伴う建設向けの需要増によりプラスとなった(2月の新設住宅着工戸数70,912戸、前年同月比: ▲2.6%)。

② 自動車 12,777t (6.6%)

乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調が継続し、5ヶ月連続でプラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比 -55.4% の 58t。

二次合金が -5.8% の 2022t

スクラップが +6.8% の 9328t

アルミ缶が -3.1% の 5627t

【輸入】

アルミ新地金が前年比 +41.6% の 13万3700t

二次合金が +20.4% の 11万62t

スクラップが +55.4% の 690t

合金スクラップが +40.1% の 4424t

【見通し】

● 平成29年3月の住宅着工戸数は75,887戸で、前年同

月比で0.2%増となった。また、季節調整済年率換算値では98.4万戸(前月比4.7%増)となった。

● 自動車は生産が +4.7%。国内販売台数が前年比 +5.4%、生産が6カ月連続プラス、販売も7カ月連続プラス。生産、販売共に増加しており今後の動向に注目

● 住宅着工の動向については、前年同月比で微増となっており、下げ止まり傾向かどうか。今後の動向に注目。

● アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績 生産5カ月連続 出荷 2カ月連続プラス

● 輸出 新年度入りと住宅、自動車の好調を受けて減少。

● 輸入 自動車の好調をうけて全品種増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は少ないながらもGW休暇要因で、すでにできており市中玉はすぐないのではないか?

需要面に関しては、住宅で底入れ? 自動車の生産販売は、好調であるが、LME在庫の急増や地政学リスクの先行き不透明感から需給は緩むのではないか?

【価格・為替予想】

今日は韓国大統領の対北朝鮮対策と中国経済、環境問題の動向に左右される。

当選した韓国大統領の文氏は、対北朝鮮政策において融和のスタンスは支持している。これが米国を中心とした国際社会の強硬姿勢と違いがあるのか? 現状のままなのか? に注目。

中国経済、環境問題に関しては、鉄、銅、アルミなどでこれまでにない環境規制が敷かれ生産活動に弊害がでている。この厳しい取り締まりが今後も続くかどうかに注目。

それらを踏まえた5月のアルミ価格は、韓国大統領の文氏が対北朝鮮政策において、今までどおりの米国を中心としたスタンスを指示し、中国の環境規制が多少緩み、企業活動がこれまでとはいかないまでも動き出した場合、

4月一段高値の2000ドルを予測。いずれかの場合は1900ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合4月一段安値の1800ドル。

為替は地政学リスクと米トランプ大統領の通商政策の進展と為替への言及次第

それらを踏まえ予測は

北朝鮮問題が再び緊張し、米国の経済政策が進展しなかった場合、高値は4月後半高値一段高の109円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合同安値の113円台を予測。

スクラップ購買価格に関しては-5~0円程度と予測している。